

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

アシートフリュー株式会社東広島飲料工場(旧 宝積飲料株式会社)

(2) 事業所の所在地

広島県東広島市志和町別府2061-3

(3) 業種

清涼飲料水の製造 1011

2 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度を基準年度とし、令和3年度から令和7年度までの 5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂），削減率（％）

温室効果ガスの種類	基準年度 排出量(a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量(d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	令和2年度 (2020)	令和7年度 (2025)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
エネルギー 起源CO ₂	3,623	3,260 10.0	4,451 (22.9)	4,525 (24.9)	5,132 (41.7)	4,660 (28.6)	100.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計	3,623	3,260 10.0	4,451 (22.9)	4,525 (24.9)	5,132 (41.7)	4,660 (28.6)	100.0
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価	太陽光発電（自家消費）を使用しているが、生産数量が増加しており、かつお茶の製造が増え 増エネ傾向にある。抜本的な対策（設備投資等）の検討が必要である。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： **調合量 kl**

温室効果ガスの種類	基準年度 原単位 (a)	目標年度 上段：原単位 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績(d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	令和2年度 (2020)	令和7年度 (2025)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024)	令和7年度 (2025)
エネルギー 起源CO ₂	0.11	0.10 9.1	0.109 0.9	0.111 -0.9	0.109 0.9	0.122 -10.9	100.0
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計	0.11	0.10 9.1	0.109 0.9	0.111 -0.9	0.109 0.9	0.122 -10.9	0.0
エネルギー消費原 単位（原油換算 kl）	57.31	54.44 5.0	55.19 3.7	55.56 3.1	53.23 7.1	58.92 (2.8)	100.0
実績に対する 自己評価	太陽光発電（自家消費）を使用しているが、それ以上にお茶の製造が増え増エネ傾向にある。 抜本的な対策（設備投資等）の検討が必要である。						

※ 削減率(c) = ((a)-(b))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1	電力使用量の削減	118.62 t /年	太陽光発電の有効活用 ※2022年1月より稼働
2	LNG使用量の削減	37.0 t /年	ボイラーの高度台数制御 ※2023年10月より実施
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項 目	削減量等	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。